

平成27年度第1回地域ネットワーク部会議事要旨

日 時 : 平成27年4月8日(水) 18:00~19:45

場 所 : 琉球大学医学部附属病院 がんセンター

構成員 : 13名

出席者 : 10名

宮里 浩(那覇市立病院)、鈴木 英章(八重山病院)、高江洲 和代(那覇市立病院)、高江洲
アヤ子(那覇市立病院)、島袋 幸代(中部病院)、真鶴 善栄(がん患者会連合会)、佐村 博範
(琉大病院)、宮城 みづえ(琉大病院) 増田 昌人(琉大病院)、仲本奈々(琉大病院)

欠席者 : 照屋 淳(北部医師会病院)、川満 博昭(県立宮古病院)、上田 真(中部病院)

陪席者 : 翁長 悦子(中部病院) 南 大介(よりよい地域医療を応援する会)、呉屋葉子(琉大病院)

[報告事項]**1. 平成27年度 地域ネットワーク部会委員について**

佐村部会長より、資料1に基づき、中部病院の委員が、翁長悦子さんから島袋幸代さんに変更になったことが報告された。

2. 平成26年度第4回沖縄県がん診療連携協議会地域ネットワーク部会議事要旨について

佐村部会長より、資料2に基づき、平成26年度第4回沖縄県がん診療連携協議会地域ネットワーク部会議事要旨について報告があり、承認された。

3. がん地域連携クリティカルパスの適用状況について

佐村部会長より、資料3に基づき、平成27年3月31日までの、がん地域連携クリティカルパスの適用状況について報告があり、施設別の適用数は那覇市立病院が圧倒的に多いこと、がん種別は乳がんが61%、大腸がん25%、胃がん8%、前立腺がん3%、肺がん2%、肝がん1%の順であることが報告された。次回以降、目標との達成状況を示すことになった。

4. 前立腺がん地域連携クリティカルパス研修会について

佐村部会長より、資料4に基づき、4/6に琉大病院で前立腺がん地域連携クリティカルパス院内研修会を行ったことが報告された。

仲本委員より、前立腺がんパスの適用症例で、連携先を那覇市立病院にしようとしたが、那覇市立病院は計画策定病院なので算定の対象外となること、今後こういった事例に対しての対応を検討することが報告された。高江洲和代委員より、那覇市立病院でも、今後の対応について、泌尿器医師、外来看護師、連携室と話し合いを持つ予定であることが報告された。

佐村部会長より、基本的には計画策定病院以外との連携が望ましいが、算定できなくても、算定有り無しの区別を行いながら、パスを運用してはどうかと意見があった。

5. 離島でのがん地域連携クリティカルパスの研修会の実施について

佐村部会長より、資料5に基づき、7/10に八重山病院で、がん地域連携クリティカルパス研修会を予定していることが報告された。よりよい地域医療を応援する会の前原さんより、講師の渡航費、宿

泊費、講演費等を支援したいと思うので、研修会の案内文書に共催でよりよい地域医療を応援する会を追加するよう依頼があり、承認された。研修会の司会については鈴木委員または玉城和光副院長にお願いすることになった。

6. がん地域連携クリティカルパス作成WGの構成員について

佐村部会長より、資料6に基づき、職員の異動等があり、がん地域連携クリティカルパス作成WGの構成員に変更があったことが報告された。推薦者の返事が来ていない施設については、また依頼することになった。

[協議事項]

1. 今年度事業計画について

佐村部会長より、資料7に基づき、今年度の事業計画について説明があり、施策アクションプランに施策9「在宅緩和ケア（ていーあんだパス）の適用数を増やす」を追加したことや、施策5「胃がんと大腸がんの化学療法のパスを作成する」について、今あるものと併用して使いたいので、出来れば作成したいとのことだった。

2. 地域ネットワーク部会に関する中間評価指標について

増田委員より、沖縄県より、琉大病院がんセンターに、沖縄県がん対策推進計画（第2次）の中間評価の委託事業の依頼があり、受けたことが報告された。

沖縄県がん対策推進計画（第2次）の中間評価事業については、琉大病院がんセンターで行うが、各部会には関連の項目について、意見を頂きたいと依頼があった。

井岡先生より、資料8に基づき、「がん診療連携拠点病院等の機能強化」、「地域の医療・介護サービス提供体制の構築・在宅医療」、「在宅医療の推進」、「地域連携クリティカルパス」について、沖縄県がん対策推進計画（第二次）、沖縄県がん診療連携協議会案、第二期がん対策推進基本計画のそれぞれマップと指標一覧を作成したこと、奈良県の計画も追加して4種類の合体版も作成したことが報告された。

増田委員より、がん地域連携パスという切り口で沖縄県のがん計画・がん対策の評価をしたいと考えているが、最終的な分野アウトカムと指標について意見を伺いたいと依頼があった。

真鶴委員より、奈良県と比較する理由について質問があり、増田委員より、奈良県は先行して行われており、全国でも評価が高いためと回答があった。

宮里副部会長より、がん医療の均てん化があるのに、各県で個別にというのはどうか。各県特色はあるだろうが、根本は全国共通にしないという意見が出るのではないかと意見があった。

増田委員より、国が作っている指標はいい所もあるがリテールに凝っていて枝葉部分の評価が多いので、根本的な評価を数少なく測りたいので、各部会の専門家の意見を伺って、がんセンターやがん政策部会で受け取り、次の部会で出していきたいと回答があった。

上田委員より、地域連携パスのメリットが分からない。色んな地域があるが、中部は乳がんの薬を知らない医師が多く、その医師たちにはお願いするのは困難であることや患者は見放されたような反応で了解しない。また、パスを適用した離島の患者が来なくなったと意見があった。

宮里副部会長より、パスのメリットについて話し合う場は必要だが、今は県の評価の話をしており、主題とは異なっている。那覇市立では、基礎疾患を持っている患者さんはかかりつけ施設を持っていることが多いので、がんの情報も共有してもらおうスタンスで行っている。紙に意味があるかは疑問だが、共通認識するには意味があり、メリットデメリットは件数を増やしてみないと分からないと意

見があった。

佐村部会長より、手間がかかることでマイナス面が目につくが、情報共有して患者さんがそれを持って移動できることはいいことであり、かかりつけ施設に簡単な検査をしてもらって助かる。件数を増やすことにより周りも慣れてくるのではないか。患者の数よりも施設が増えることが重要で、協力機関参加数を評価項目に入れてはどうかと提案があった。

宮里副部会長より、地域連携に関して、本島内の連携は全国的な指標でいいが、離島の評価が大事ではないか。医療設備が足りない中で、離島の患者さんの満足度を上げる施策と評価が必要ではないかと意見があった。

がん地域連携パスの最終目標については、「住んでいる地域にかかわらず県民が希望する医療を受けられる」に「かつ満足している」を追加し、指標については、適用した患者さんすべての満足度調査と医療者側の満足度調査、拠点病院におけるがん患者数とパス適用人数の割合とし、分野目標は、かかりつけ施設参加数と運用する施設を増やすことになった。

上田委員より、検診率を50%に上げる目標について、色んな地域格差や予算が必要で実際には難しいことや、マンモグラフィ検査について、同じ人が連続で受けていて、触診だけの人がいると意見があった。

井岡先生より、受け皿や市の予算もないため、検診率50%は難しいと思うが、検診の最大の目標は、早期診断割合の増加で、早期に見つかれば生存率が上がって死亡率が下がる。ハイリスクや節目年齢の方を干渉して、その方に検診を受けていただく。医療連携に関して、医療圏ごとに連携を考えていくことが中間アウトカムに入ってくるのではないかと提案があった。

高江洲和代委員より、拠点病院はがん相談窓口があり、院外からの相談をMSWが対応し、件数チェックしているため、がん相談の件数なども内容も入れてどうかと提案があった。

宮里副部会長より、がん医療はレベルが上がっており、拠点病院と同じような施術をやらざるを得ないので、波及効果のあるものを調査し評価してはどうかと提案があった。

増田委員より、医師会を通して全医療機関にアンケートを取ったりするかもしれないので、その際は協力して頂くよう依頼があり、中部病院の翁長さんより、紙カルテのため、調査する際は前もって連絡するよう依頼があった。

他、高江洲アヤ子委員より、在宅緩和ケアのパスが一件適用されたことが報告された。

がん地域連携パスについては、各WGで問題点など話し合うことになった。

3. 次回の開催について

次回の開催日は、第一候補は7月22日で、第二候補は7月29日となった。

